

第3次清瀬市子供読書活動推進計画に対して提出された意見等の概要 及び意見に対する市の考え方

平成31年1月16日から平成31年2月5日までの間、第3次清瀬市子供読書活動推進計画（素案）に対する意見募集を行った結果、1人の方から5件の意見が提出されました。

そこで、これらの意見を適宜要約し、項目ごとに整理したうえで、意見に対する第3次清瀬市子供読書活動推進計画の考え方を取りまとめましたので、清瀬市パブリックコメント実施要綱第8条及び第9条の規定により次のとおり公表します。

No	意見等の概要	回答
1	こども図書館の蔵書が少ない。古くから読み継がれている文学作品、教科書に出ている作品の著者の作品、総合的な学習で利用する資料など学校図書予算ではそろえられないもの、複冊を用意できないもの等が用意されていない。家庭学習などで調べ学習に取り組みにくい。普段から本に親しめる環境を作ることで子供たちの学力の向上が図れるのではないか。	現在、元町こども図書館の所蔵点数は33,000点であり、これは、現在の収容冊数では上限を迎えています。ただし、本市全図書館の児童書を合わせますと、約100,000点を所蔵していますので、全体での児童書の質を含めた充実を図っていきます。
2	こども図書館がある3階という場所が小学生にとって利用しにくい。1階のロビーのスペースなどを有効活用し、子供たちが通りがかりに気軽に入れるようにすることが、本に親しむ第1歩となると考える。	けやきホールの管理は指定管理者のため運営母体が異なります。今後協働して事業ができないか、話し合っていきます。
3	こども図書館の配架のしかたが使いにくい。3年生からはじまる総合的な学習等で利用するときには大切なのは自分で資料を探す力を養うことだと考える。そのためにも日本10進分類法に基づく配架にしておくことが大切だと思う。	現行も絵本や物語等を除き、日本十進法に基づいて配架しています。様々なテーマに応じた展示も行っており、保護者からはおおむね好評です。表を掲示するなど日本十進分類法を周知するよう努めます。

4	<p>家庭で保護者が日常的に手に取って いけば、自然と子供は親の姿から本に 親しめるようになる。そういう意味か らも、いつも利用者が多い駅前図書館 の児童スペースを増やし、親子で買い 物ついでに本に親しめるようにしたほ うが良いと思う。</p>	<p>駅前図書館は一般書、元町子ども図 書館は児童書の専門図書館と機能分担 したことで、飛躍的に利用が増しまし た。駅前図書館の児童スペースを増 やすことで、市民の皆様に定着してい るそれぞれの館の特性が損なわれる懸 念もありますので今後、施設の見直し 等に併せて、検討していきます。</p>
5	<p>清瀬の100冊はどのように選ばれて いるのかがよくわからない。どのよう な選定基準になっているのかだれがど のように選んでいるのかわからない ので公表してほしい。</p>	<p>平成22年に「清瀬の100冊」検討委 員会を立ち上げ、「清瀬市の未来を担う 子どもたちが、生き活きと明るく、そ して豊かな創造力を育めるよう、小学 生・中学生それぞれの年代に相応しい 100冊」を大きなテーマに検討を重ね決 定しました。対象となった図書は、日 本文学、外国文学を問わず古典的名作 から、現代の創作童話まで、教科書で 紹介されている図書も含めて定評のあ る図書の中から選びました。</p> <p>また、学習指導要領の改訂に合わせ、 平成29年度に絶版本等一部本の入れ替 えを行いました。</p>